

# コンピューターによる文献目録作成法

大 木 靖 郎

筆者は10年来、文献目録作成を心がけてきたが、当時は、データベースソフトの使用でしか、それが可能でないと誤断していた。高価なデータベースソフトが購入不可能な事もあって、使用できず、作成はあきらめていた。しかるに、ウィンドウ用のデータベースソフト（Paradox, Access等）が格安（2万円程度）で入手可能になり、これで文献目録を実際に作成してみて、この方法は「無駄である」「無意味である」という結論に達した。

図書館用の、誰にも分かり易いように作成された書式に惑わされていたのである。要は、文献目録は、自分の使用に便利で有りさえすれば良いのであって、見栄えが良い必要は全くない事に気づかなかつたのである。情報検索のための利用と論文作成時の引用等に簡単に使用可能で有りさえすれば良いのであった。

これから紹介する方法は、各種の文献の後にある参考文献、引用文献などを、スキャナーで読み込み、使用できるように加工して使用する方法である。自分でキーを叩いて入力するのでは、数千、数万という数はおぼつかないし、不可能と言って良い。さらに、インターネットで相当数ダウンロード可能になったことも重要である。

また、インターネットの利用が、自己の文献目録を所持することにより、より検索が便利になるので、今後はさらに重要になってきている。インターネットで検索可能になってきているから、自分用文献目録は不必要という意見も一部にあるが、これは全く間違いである。闇雲に検索するのは時間の浪費である事を明記しておきたい。

インターネットで文献検索が簡単に利用可能になってきたからこそ、自分用の文献目録が必要になってきたのである。

文献目録の形式は不問となれば、簡便さという面から「タブ区切りテキスト・ファイル」がベストである。これなら、作成に多少手間がかかっても、検索も簡単であるし、他のソフトに簡単にコンバートして、入力し、修正使用可能である。この、他のソフトに簡単にコンバート可能と言うことが大変重要である。以下では、MS/Works/Win, EndNotePlus/Macなどにそのままコンバートする事を論じる。勿論、データベース・ソフトでも利用可能である。

タブ区切りテキスト・ファイルとは、以下のような形式のものである。

```
“Beard, Miriam” <tab> A History of Business (paperback). <tab> Ann Arbor:  
<tab> “The University of Michigan Press, Vol. 1” <tab> 1962 <Enter>
```

```
“Beard, Miriam” <tab> A History of Business (paperback). <tab> Ann Arbor:  
<tab> “The University of Michigan Press, Vol. 2” <tab> 1963 <Enter>
```

これに対して、従来からこの種のものに使用されてきたファイル形式に「カンマ区切りファイル (Comma-separated file)」がある。コンピューター・ファイルの歴史からは、この方が古い。であるから、特別に CSV (Comma Separated Value) ファイルという名称も存在しているくらいである。

カンマ区切りテキスト・ファイル (CSV ファイル) の例

```
“Beard, Meriam”, “A History of Business (paperback)”, “Ann Arbor:”, “The  
University of Michigan Press, Vol. 1”, 1962 <enter>
```

## テキスト・ファイル

テキスト・ファイルは正式にはアスキー・テキスト・ファイル (ASCII Text File—American Standard Code Information Interchange) と呼ばれ、MS/DOS では、type コマンドで表記され得るファイルと呼ばれている。文字情報からなるファイルで、そのまま表記すれば人間の判別可能な文字で表される。コンピューターでは、ファイルにはバイナリー・ファイル (2進法の数値データ) やプログラムの様な、そのまま画面に表示しても意味有るようには判読不能なファイルもある。プログラム・ファイル (MS/DOS では、拡張子が COM とか、EXE とあるもの) は人間に理解可能である必要はなく、コンピューターが判れば良いファイルなのである。

テキスト・ファイルには、ワープロから文字飾りとか、改行コードなどを省いたコンピューター・プログラムに代表されるベタのファイルもあるが、文献目録で問題とするのは、著者とか署名とかの各項目の切れ目が判別可能な形式のファイルである。

この項目を区切るのに、カンマで区切る物、タブ・キーを押すことによって区切った物、スペース・キーを押すことにより区切った物、などが代表的である。

住所録などは、作成者がどの様に項目を区切っているかに依るが、これら区切りファイルの代表的な物である。スペース区切りファイルは項目それ自体に空白を含む場合、カンマ区切りもカンマを含む場合には、項目を引用符で挟む形式が取られる。スペース区切りファイル形式は数字

のみのデータ・ファイルに多く使用される。どの形式を採用するかは、使用者の好みの問題であり、使用者が判読しやすい形式が取られる。例文で、<tab>と有るところが、スペースとかカンマとかになるのである。項目にカンマが含まれるから、その部分は引用符でくくって置くのが普通である。また、筆者は、この種の文献目録ファイルで、スペース区切りは絶対に行わないから、表題の部分のスペースはそのままにして有る。筆者は見やすさという面から、Tab キーによる区切り方を好む。さらに、項目や目録それ自体を整理、並び替えなど行う場合には、スプレッド・シートを使用するのが通例であるが、tab 区切りファイルも、カンマ区切りファイルも、スペース区切りファイルも相互にスプレッド・シートで通例交換可能である。であるから、どれか一つの形式で作成しておけば、それをスプレッド・シートでいかようにも変換ができるから、この面では苦慮する必要は全くない。要は、作成者が最も理解しやすい形式で作成しておけばよい。

## エディターとカーソル移動の操作

エディターの操作の中で、特にカーソルの移動や削除のコマンドの習得は重要である。表に示す様に、日本に於ける各エディターの操作は、パソコン初期のワードスターというワープロの影響が大きい。

いわゆる、ワードスター・ライクのキー操作と、Unix での Emacs・ライクのキー操作とが代表的な物であった。この表中、現在の標準的なワープロであるマイクロソフト・ワード（ウィンドウ用及びマック用、共通）のキー操作も表示して有るが、これが今後、ウィンドウ・ソフトの一般化にともなって、主流になるであろうキー操作である。マイクロソフトが提示しているという事によって、我々は否応なくこの操作をマスターせねばならないという事になる。しかし、過去に於いてエディターのキー操作が、ソフト提供会社のデフォルト設定では、ほとんどのパソコンで、MS/DOS、ウィンドウ、マック、全てにわたって、日本では同一に近かった事が理解されよう。勿論、エディターのキー操作は自分用に設定・変更可能であり、これがお仕着せのキー操作を強制されるワープロ・ソフトと異なる点である。であるから、ベタの文章は使い慣れたエディターで作成し、ワープロは印刷・文字飾り用という人がいるのも当然の事とうなずけよう。文章作成には、スピード、操作という点からいって、もっとエディターに親しむ方が楽である。ベタ文章もテキスト・ファイルにしておけば、いかなるワープロに対しても、また時代の変化に対しても、安全であるから。さらに、エディターでは、通例マクロ操作というのが存在し、自分用のルーティンのキー操作をプログラム化して登録が可能であり、大変便利である。なお、マイクロソフト・ワード・マックの場合は、通例のアップル・キーボードではなく、拡張キーボー

ドで無いとこの操作は出来ない。第一、Home キーとか、End キー、Page Up キー、Page Down キーは、このキーボードでないと存在しない。

カーソル移動、削除などのコマンド	Word Star 3.3	Mifes/DOS	Mifes/Win	WZ/Win	YooEdit/Mac	MS/Word
カーソルを左へ1文字移動	^S	^S, <-	^S, <-	^S, <-	^S, <-	<-
カーソルを右へ1単語移動	^A	^A	^A	^A	^A	無し
カーソルを左の行の先頭へ移動	^QS	Shift+<-, ^QS	Shift+<-, ^QS	^QS, ^<-	^QS	Home
カーソルを右へ1文字移動	^D	^D, ->	^D, ->	^D, ->	^D, ->	->
カーソルを右へ1単語移動	^F	^F	^F	^F	^F	無し
カーソルを右の行の終点に移動	^QD	Shift+>, ^QD	Shift+>, ^QD	^QD, ^->	^QD	End
カーソルを上へ1行移動	^E	^E, ↑	^E, ↑	^E, ^	^E, ↑	↑
カーソルを上へ1スクリーン移動	^R	^R, Page Up	^R, Page Up	^R, Page Up	^R	PageUp
カーソルをファイルの先頭へ移動	^QR	^QR	無し	^QR	^QR	^Home
カーソルを下へ1行移動	^X	^X, ↓	^X, ↓	^X, ↓	^X, ↓	↓
カーソルを下へ1スクリーン移動	^C	^C, Page Down	^C, Page Down	^C, Page Down	^C	Page Down
カーソルをファイルの終点に移動	^QC	^QC	無し	^QC	^QC	^End
テキスト上の左側の1文字を削除	無し	^H, BS	^H, BS	^H, BS	DEL, ^G	BS
テキスト上の右もしくはカーソル上の1文字を削除	DEL, ^G	DEL, ^G	DEL, ^G	DEL, ^G	^H	DEL
行全体を1行削除	^Y	^Y	^Y	^Y	^Y	無し

## 文献目録作成手続き

さて作成手続きは以下のとおりである。

- (1) スキャナーで、英文の場合は OCR ソフトの Omni Page Pro を使用して、読みとり、ASCII テキストファイルとして、一つ一つファイル名を付けてセーブする。日本語文献の場合は Win Reader Plus/Win というソフトを使用した。
- (2) エディターを使って、これらのファイルを単一のファイルにつなぎ合わせる。大抵のエディターには、「ファイル」—「カーソル位置に挿入」という項目がある。そこに新ファイルを呼び込んで挿入し、一つのファイルにする。
- (3) 一つにまとめたファイルを、一文献一行で表記されるように、余分な改行記号（リターン・キー記号）を取り去る。それをセーブする。
- (4) スキャナーでの、読み間違いが必ず存在するので、ワープロ（MS/Word/Win US 版）に読み込み、スペルチェックをかける（英文の場合）。

日本語文献の場合は、日本語のスペルチェックは不完全なので、日本語ワープロ（MS/Word/Win）で一つ一つ読み合わせしなければならない。その後、再度、テキスト・ファイルとして、セーブする。

- (5) タブ・セパレーテッド・ファイル（Tab-Separated File）の作成。——エディターに、このファイルを再度読み込み、各項目を切り分けるために、項目ごとにタブを挿入する（いわゆる、タブで飛ばす）。セーブする。これが一番面倒な作業である。各エディターのカーソル移動コマンドに習熟してないと大事になる。

- (6) スプレッド・シート（今の場合、MS/Excel/Win）に、タブ区切りとして読み込み、項目のチェック、整理を行う。セーブ。
- (7) book, article などに分類する方が多い場合が多いので、ここでは Book には b, Article には a, などを分かり易い任意の列に記入し、それを元に、Excel の「ツール項目」を使用して、分類、ついでに並び替えを行う。(5)でのファイルとは別名でセーブする。

理由は、チェックなどのために原文献の並びが重要となる場合もある。Excel は並び替えると、原データの並び方は保存されない。即ち、並び替えの前の状態に戻すことが二度と出来ないのである。
- (8) Book 別, Article 別にクリップボード経由で、別ファイルにセーブする。分類規準に使用した a, b などという記号の列は、範囲指定を使用してごっそり削除するか、コピー時にはずす。
- (9) タブ区切りテキスト・ファイルとしてセーブする。セーブされたファイルは、ダブル・クォーテーション「”」で囲まれたものとして、戻される。

このテキスト・ファイルを book, article 別にまとめて文献目録として利用するのが最も効率的である。書物と論文とでは、項目数が異なるため一緒に管理するのは困難になる。もし一緒のファイルにまとめる場合には、必ずそれ以前の分けたファイルを保存しておくこと。

文献検索は、「編集」－「検索」で、エディターでもスプレッド・シートでも、あるいはデータベースでも簡単に出来る。

しかし、ここで作成したタブ区切りテキスト・ファイルはあくまでも効率一点張りのドキュメントであるから、もう少し格好を付けたいという気持ちがどうしても出てくる。そこで、これを MS/Access/Win などのデータベース・ソフトに呼び込むなら、図書館の文献カード形式の目録ができあがる。マックでなら、File Maker を使用すれば良い。しかし、最も簡単にそれらしくするなら、MS/Works/Win のデータベースを使用すると良い。

#### マイクロソフト・ワークス/Win のデータベースで管理する方法

ワークスは今度、改めて使用してみて、大いに認識を改めたソフトである。というのは、上記、(1)から(9)までの手順の内、Excel に完全に替えても良い機能を持っていた事が判明した上、タブ区切りファイルもダブル・クォーテーション・マーク(”)の付かないファイルを出力し、ワークスのデータベースにもそのままファイル入力可能のみならず、下記の End Note にもそのまま入力可能であった。

データベース・ソフトでは、個々のデータをレコードといい、レコードの各項目のことをフィー

ルドと言う。フィールドの定義とは、項目名を決めること。コンピューター・ソフトを扱う場合、呼び名に惑わされる事が多いのに注意する必要がある。

まず、上記テキストファイルを Excel もしくは MS/Works のスプレッドシートに呼び込む。全範囲を指定してクリップボードにコピーし、フィールドを作成したデータベースをリスト形式にしておいて、クリップボードよりペーストする。カード形式で見たいときには、フォーム形式に表示を替えれば OK。従って、以下のドキュメント形式もしくは、その変形で我慢するなら、これで十分であろう。複雑な形式の物は、自分でフォームを増やせばよい。

Author : Arnold, Horace Lucian, and Fay Leone Faurote  
Book Title : Ford Methods and the Ford Shops.  
Place Published : New York:  
Publisher : The Engineering Magazine Company,  
Year : 1915

#### マイクロソフト・アクセス／Win で管理する方法

ウィンドウ・ソフトでのデータベース・ソフトの代表的なソフトである、アクセスを使用する場合には、「ファイル」の「新規作成」で、データベースの新規のファイル名を付け、さらにデータベース・テーブルの「新規作成」を選ぶ。次に、ファイルのインポートを選択。変換元のデータでテキスト（区切り記号付き）を選択し、インポートするテキスト・ファイルのあるドライブ、ディレクトリ、ファイル名を選ぶ。注意するのは、テキスト・ボックスのインポートの設定「設定（0）>>」でのフィールド区切り記号の所で、「タブ」を選択すること。これで簡単にインポートされる。以上のは、エクセルと同じ表の形で表せられる物なので、これを上記 Works の所で、示したフォーム形式で表現するために、次に、フォーム作成でテーブル／クエリーを選択し、今セーブしたテーブル・ファイルを選び、フォーム・ウィザードで単票形式その他を選択すれば全て OK。エクスポートも簡単。

#### File Maker Pro/Mac での作成法

マックの代表的なデータベース・ソフトの File Maker は、アクセスと異なり、リレーショナル・データベース・ソフト（Relational Data Base Soft）ではないが、業務用に使用するのはないので、このカードタイプ・ソフトで、文献目録用には十分である。文献目録に用途を限れば、アクセスなどは過剰品質であると言い得る。

起動した後、ファイルの「新規」作成より、新規の「フィールド定義」で、フィールド名を定

義する。著者名，書名，その他，項目全部。終了後，そのファイルに，「ファイル」の「データ取り込み」で import するファイル（タブ区切りファイル）を指定するとそのまま入力される。また，出力するときも同様に出力したいファイルを呼び出しておいて，「ファイル」での「データ書き出し」で出力するファイル名（タブ区切りファイルがデフォルト）を指定し，「現在のレイアウトにあわせてフォーマット」を選択すれば，それを簡単にタブ区切りテキストファイルに出力する。この手のデータベース・ソフトとしては，さすがに大変簡単である。

### End Note の使用

しかし，ここでは，文献目録ソフトの No.1 であるマックの End Note Plus がウィンドウ用に移植された場合に備えて，それ用の手だてを説明しておく。End Note は，手入力する場合には，何ら問題は起きないのであるが，これに上記ドキュメントなどを，ごっそり入力しようとする場合には，相当の覚悟が必要であった。

しかし，上記(4)から(9)までの手続きを行って，(9)のタブ区切りテキストにして置くなら，後の操作はコンピューターが行い簡単である。

End Note の入力形式は以下のような物であり，これ以外は例外を認めない。この内，三行目以下が，上記作成の文献用タブ区切りテキストである。例として，End Note での Generic 形式で説明しておく。

\* Generic <Enter>

Author <Tab> Title <tab> Place Published <tab> Publisher <tab> Year <Enter>  
Barnard, Chester I., <Tab> The Functions of the Executive. <Tab> Cambridge,  
Mass.: <Tab> Harvard University Press, <Tab> 1938 <Enter>

Simon, H. A., <Tab> Models of Man. <Tab> New York : <Tab> John Wiley &  
Sons, Inc., <Tab> 1957 <Enter>

ここで注意してもらいたいのは，Excel が出力するタブ区切りファイルは，必ずダブル・クォーテーション・マーク（"）を含む事である。一方，End Note Plus 2 は，上記のようにそれが無い。この「"」が付いている限りは，EndNote は一切のデータ入力（import）を拒否する。

そこで，このダブル・クォーテーション・マークを取るために再度ファイルを Mifex エディター，あるいは WZ エディターに呼び込む。カーソルを文頭に置き，置換命令で，「"」マークを「^g」（DOS の削除コード。コントロールキーを押しながら g を押す事）で置き換えるようにすると，ファイルからこの「"」が無くなる。End Note がウィンドウのソフトなら，これを

そのまま import すればよい。

しかし、ここでも MS/Works/Win は大変便利な機能を示した。なんと、(“) 無しのタブ区切りファイルをセーブ可能なのである。Excel で不可能なファイルを作成できるのである。これなら、このまま End Note に入力可能である。

マックの場合は、やはり Excel/Mac からの出力ファイルを、Yoo Edit エディターに呼び込み、置換命令で、「”」を「^p」（マックでの削除コード）に置き換えると、同様となる。

また、現在ウィンドウ用 End Note が出ていないので、とりあえずマックを所持しているから、文献目録だけ End Note で管理しようと言う場合には、次のようにする。

WZ エディターなら、「”」マークを削除したファイルを、セーブするときに、「Mac 形式」でセーブという項が有るので、これでセーブし、マック側で PC-Exchange 及び電機本舗の Dos-Mac 変換（共に漢字 Talk 7.5.1 に付属）をコントロール・パネルに入れておけば、マックが DOS ファイル（DOS フォーマットされたディスク）を自分のファイルと認識して、そのまま使用できる。

なお、最初の行の\*以下の単語の部分は、マックのエディターで書き込んだ方が無難である。というのは、Excel で全て記入しておく、この最初の 1 行に、項目数だけのタブが付属し、End Note で読み込み不能になる。即ち、以下のような物になるのである。

\* Generic <tab> <tab> <tab> <tab> <Enter>

Mifes エディターを使用しているなら、「”」削除後のファイルに、以下の手続きを施す。置換命令で、「¥n」（DOS のリターン・キー・コード）をマックの改行コード「¥x0d」で置き換えると、マックでそのまま通用するファイルとなる。

MS/Works なら、そのままのテキスト・ファイルで OK。

次に、End Note で加工し（例えば重複文献の削除など、これを Excel でやるのは面倒である）、その結果を DOS に戻して管理できれば大変結構な自体となるのだが、なにせマックのソフト。そうは問屋がおろさない。EndNote の出力する（Export）ファイルの形式は、一文献べた一行のテキスト・ファイルである。せっかく苦心してタブ区切りファイルを作成して入力したのに、返される結果は、全くの区切り無しの「べたファイル」である。これでは、再度入力ファイルとして、使用できない。

これが、End Note の現状である。さらに、この End Note、マニュアルが 440 ページ近くあ



る英文のみで、手こずることおびたしい。日本語マニュアル付きのウィンドウ用の発売を願う物である。

マックソフトの内、現在、ウィンドウ用に移植されていない唯一の重要ソフトである。Dos/V用は有るが、これをあえて使用とするのは面倒であろう。

### インターネットによる文献検索による例

以下は、gopher を使用して、HBR の文献検索をした例の一部であるが、見るがごとく、完全な形で文献入手は一つずつ拾い上げないと表記されない。であるから、現状では、文献目録を完全にこれに依存する事はいささか無理である。文献の種類に依るが。

ITLLE: Harvard business review

ISSUE: 11/01/93 v 71 n 6

In 11/12/93

---

	AUTHOR	TITLE	
PAGE			
001	Goss, Tracy	The Reinvention Roller Coaster: Risking the	97
002	Duck, Jeanie Daniel	Managing Change: The Art of Balancing.	109
003	Hall, Gene	How to Make Reengineering Really Work.	119
004	Prokesch, Steven E.	Mastering Chaos at the High-Tech Frontier:	134
005	Biddle, David	Recycling for Profit: The New Green Busines	145
006	Hori, Shintaro	Fixing Japan's White-Collar Economy: A Pers	157
007	Maruca, Regina Fazio	HBRCase Study: When New Products and Custo	22
008	Kimmel, Michael S.	In Question: What Do Men Want?	50
009	Pitroda, Sam	World View: Development, Democracy, and the	66
010	Martin, Roger	First Person: Changing the Mind of the Corp	81
END OF CONTENTS...			
<RETURN> to continue, <R> to REPEAT this display			
LINE NUMBER for detail <C> Un Cover Complete			
LINE NUMBER + M (ex: 12 M) to MARK for order			
or <O> to ORDER marked articles. >> 006			
----- Un Cover -----			

AUTHOR(s): Hori, Shintaro

TITLE (s): Fixing Japan's White-Collar Economy: A Personal View.

Summary:

In: Harvard business review.

NOV 01 1993 v 71 n 6

Page: 157

The publisher does not permit us to deliver this article.

Please ask for assistance at your library.

以上のように「タブ区切りテキスト・ファイル」を作成しておきさえすれば、いかなる自体にも簡単に対応可能なことが理解されたと思う。多少手間をかけても暇な時間に少しずつタブ区切りにしておけば、積もり積もれば、相当の文献数になり、自己専用の文献目録が所有可能である。

## 使用システム構成

## 「ウィンドウ用」

(AT 互換機 : intel 80486/DX4/100, RAM 16MB, SCSI 規格) + 730MB(Quantum) + 340MB(Maxtor) + SyQuest 270MB Removable (内蔵) + CD-ROM(Plextor 4倍速 内蔵) + HP 2C スキャナー + モデム サンタック 28800 ボー + プリンター Epson LP 1500

## 「Mac 用」

LC 475(68040/25, RAM 20MB) + 240MB 外付け(Quantum) + SyQuest 270MB リムーバブル(外付け) + Plextor 4倍速 CD-ROM (外付け)

モデム及びプリンターはウィンドウ, マック, 切り替え使用。

## 使用ソフト

Micro Soft Office (Word 6.0 J, Excel 5.0 J, Access 2.0 J, Power Point 4.0 J) for Windows

Mifes Editor for Windows Ver. 2.0

WZ Editor for Windows 1.0

一太郎 for Windows (Atok のみ使用)

Air Navigator for Windows 3.01a J (Inter Net)

My Talk for Windows 1.1 (コンピューター通信ソフト Nifty に使用)

Micro Soft Works for Win 3.0 J (統合ソフト)

Win Reader Plus for Windows (日本語 OCR ソフト)

Omni Page Pro for US Windows (英文 OCR ソフト)

Micro Soft Word 6.0 US Version for Windows (英文ワープロ・ソフト)

Micro Soft Word 5.1 US Version for Mac (英文ワープロ・ソフト)

Micro Soft Excel 5.0 J for Mac (スプレッド・シート)

Yoo Edit Editor for Mac (PDS)

Atok 8 for Mac (漢字変換用 FEP)

End Note Plus 2.0 for Mac (文献目録ソフト)

Jterm 2/Mac (通信)

Font Pachin (PDS 漢字トーク文字化け防止ソフト)

Data Pot ファイル変換ライブラリ (電機本舗デモソフト)

WordScan Plus (英文 OCR ソフト)

File Maker Pro (データ・ベース・ソフト)

#### 〈参考文献〉

- (1) 中尾 弘, 伊藤直哉, 逸見龍生共著「マッキントッシュによる人文系論文作法」夏目書房, 1995
- (2) 諏訪邦夫, 岩瀬良範監修, 加山裕高, 長田 理, 岩瀬良範, 諏訪邦夫共著「知的生産のためのパソコン技法」技術評論社, 1995
- (3) 戸田慎一, 景浦 峡, 海野敏共著「インターネットで情報検索」紀伊国屋, 1994
- (4) その他 上記ソフト・マニュアル

#### 追 記

この論文は当初 1995 年 10 月の経営学会関東部会で発表されたものを, 多少の手直しを行って, 1996 年 3 月出版の予定であった「紀要」の原稿としてまとめられたものである。それが出版元の都合により, 一年間延期される結果となった。

この間に使用ソフトのバージョンが新しくなった物が多いが, 基本的な操作, 手順は変更されていない。

大きな変更点は, End Note Plus 2 の windows 版が発売になったことである。しかし, 性能的にはマック版と同様であった。欠点も同様である。

いずれ, 大きな変更点の確認され, 内容において操作手順が変更されるなら, その時点で書き直す積りである。